

江源氏鑑

十八

Z10

7R

Vol. 2015

部	187
番	10
号	10
籍	中興圖書部藏

寄贈

贈	寄
明治廿貳年以降本校卒業生三百十八名	
大正	七年
	六月
	八日

江源武鑑卷第十八

天正六戊申年

三月大

十三日越後國長尾入道謙信トシノ輝ヒ虎ク病死行年

四十九歳ト申ナリ

自四月廿八日至五月十二日大洪水滔天洛

中家流人民數百死

天正七癸卯年

二條關白晴良公逝去屋形ノ伯母ハハ駕カナリ

江源武鑑
念文庫
印

天正八年庚辰年

天六月大

十五日夜ノ星月ヲ貫クナリ占者ノ曰三年

ノ内ニ臣君ヲ討事有ヘシト云

春ニテ天下大疫病ハヤル人多死ス江州ノ内

ニテ二千余人ニ及フナリ

天正九年辛巳年

天正月小

廿五日京極長門守源高吉率ス号道安屋形

ノ氏族タリ殊度々ノ合戦ニ軍忠アルニ依テ

屋形人ニ異賞ヲシ玉フ也京極ノ元祖氏信ヨリ

以來ノ人也ト世以テ云京極跡目ノ事小法

師高次ニ相違ナク仰付ラルナリ

天正十年壬午年

正月大

十五日夜紅氣北方ニ滿クテ世界ノ人面草

木ニ至ルマテ皆悉ク如丹

十一月小

十一日屋形ノ御曹司若狹局腹ニ誕生ナリ
龍勝丸ト申ス御前御心ノ内不好ニ依テワ
キ腹ノ御子ヲカクスナリ依之進藤山城守
預リ奉テ養育申ナリ

三月大平

三日佐々木御祭礼アリ
去月上旬岐阜ノ信忠ハ信川退治トシテ進
發ナリ武田旗下木曾義政ト云者信忠ヘウ
ラカヘリテ如此又羽柴筑前守中國合戦備

前備中城々責落ス
信川ヨリ信忠ノ使節毎日來ル責向ホトノ
城不落ト云事ナシトナリ委ハ本日記ニア
ルヘシ

五日信長安土ヲ立玉フ五万六千騎ナリ屋
形ヨリハ御名代トシテ進藤山城守ニ後藤
喜三郎阿閉淡路守磯野丹波守平井加賀守
馬淵源太左衛門山崎源太左衛門池田伊豫
守等二八千七百騎ニテ信長公ニ一日アトニ

六日ニ出陣スルナリ

十一日甲川信川退治終テ今日武田四郎勝

頼息太郎其外一門家礼甲川田野ト云所ニ

テ討レ首上ルナリ委ハ本日記ニアルヘシ是

ヨリシテ東國大方信長ノ手ニ入スト云事ナシ

十八日信長石山寺ニ參テ觀音ノ像ヲ拜シ

申サル前代未聞ノ惡行也ト云

四月小

朔日今日ヨリ佐々木御神事初ル

六日午日當日祭礼渡物等如例年

廿一日信長東國ヨリ上洛今日安土ニ著玉

フナリ同日菅谷九右衛門ト云者ニ委ク武

田退治ノヤウス屋形へ可申トテ即安土ヨ

リ信長ノ使節觀音城へ來ルナリ屋形梳ヲ

モ夕ケテ委ク聞召テ勝頼死ヤウナト聞テ

仰ケルハ甚軍ノ法ニ背ク事武田滅亡ナリ

トニカク信長弓矢冥加大將ナリ雖然無慈

悲ナレハ送スル事アルヘシ此古來ヨリ

良將ノ謂也ト仰ラル屋形御口語ニ種々故
實多シ

廿八日信長安土ヨリ觀音城ニ移ル三日
テ逗留ス屋形甚賞シ至フ

五月小

五日佐々木御祭礼例年ノコトニ屋形ノ御
曹司社參旗頭等供奉ス午剋ヨリ大洪水

十四日三州徳川三川守家康穴山梅雪ヲ召
連テ安土へ上ラル

十五日中國ヨリ使節來ル羽柴筑前守秀吉
數箇所ノ毛利家持ノ城々ヲ責落スノヨシ
ヲ告來ル

十六日信長甲州穴山梅雪ニ都ヲ見物致サ
世可申トテ徳川三川守家康同道ニテ今日
安土ヲ立ツナリ

同日夜星貫月東西赤氣アリ旗ノコトニ東
白西赤ナリ諸人面ヲ見時ハ赤氣移テ人面
赤ニ東ヲ見ル時ハ白氣移テ人面白粉ヲ又

リタルコトクナリ未代ニタメシナキト云
十八日信長諸將ニ命シテ近日中國出勢ス
ヘキナリ在安土ノ面々ニイトニヲ至フ
十九日屋形病氣甚キニ依テ安土ヨリ信長
觀音城へ移玉フ大醫衆數多京都ヨリ今日
下向ナリ信長下知ニ依テ如此
廿二日信長安土へカヘリ玉フ屋形病氣少驗
氣付テナリ國中大神ヨリ神人卷數等ヲ觀
音城へ進獻ス

同日酉剋佐々木宮鳴動ス此月江州ニテ童
子ノ早哥ニ觀音寺山ニナニヤラ光ル御
屋形様ノ太刀ノツハク占者是等ノ早哥ヲ
聞甚凶事ナリト云平井加賀入道カ曰求祿
年中箕作ノ後見兼頼父子當屋形ヲ退テ管
領職ヲトラントテ先後藤但馬守ヲ討シ其
年ノ春當國ニテノ早哥ニニミヲツクリ。ゴ
トウ惡カ口ヲカシマセ。ナラヌダテヲハセヌ
物子ヤ。トウタイニカ果シテ後藤ヲ箕作殿

討玉ヲニナラヌ事ニ成テ其身亡ヒ玉フト云

廿三日岐阜ヨリ信忠上洛安土ニ著陣ナリ

同日夜戌剋ニ觀音城へ來リ玉ヒ屋形ノ病

氣甚キ事ヲ悲ニ玉フ同夜子剋ニ信忠安土

へカヘリ玉フイニ大養院

廿四日午剋江陽屋形北陸道管領大光院殿

崇源參儀源義秀逝去ニ玉フ春秋三十八歳

御一門旗頭等ニ至ルニテ暗夜ニ燈ヲ失ナヘリ

同日夜酉剋ニ御躰ヲ先比良山ノ峯ニ葬リ

奉ル進藤入道崇雲後藤喜三郎兩人彼山ニ

參テ諸將ノ下知ヲナシ翌日ニ至テ江東ニ

カヘル甲賀八百人ノ内三組比良ニ相詰申

ナリ

屋形御吊ハ於慈恩寺次第ハ鎖倉ハ天台山

正覺院僧正起龍ハ三井寺勸學院權僧正下

火ハ比良山大覺坊和尚尊海ナリ

廿六日ヨリ比良山ニテ御葬礼アリ一七月之

次第ハ

廿六日轉經

廿七日頓寫施餓鬼

廿八日懺法

廿九日入室

晦日關維

朔日宿忌

二日陞座拈香等十リ

廿七日信長安土ヨリ觀音城ニ移玉ニ屋形

他界ヲ殊更ニ十ヶカル同日屋形ノ北方御

出家松樹院殿ト申奉ルナリ

同日信長酉剋ニ安土ヘカヘリ玉フ

廿八日午剋ニ日光ヲ失ヒ玉フ酉剋ニ西ノ

方赤氣立テ人面皆赤シ近國ノ面々中國ヘ

信長進發ニ付テ安土ニ馳集ル

廿九日信長上洛近習計ニ百騎ニテ上京ア

リ本能寺ニ旅館ヲスヘラル

同日城介信忠上洛妙覺寺ニ旅館ヲスヘラル

六月大

二日午剋ニ京都ヨリ早馬來ル今朝本能寺

ニ於テ信長他界ノヨシヲ告來ル明知日向

守光秀中國ヘノ人數ヲ丹波ヨリ京ヘヲシ

出に延心に信長ヲ討奉ルトナリ
京都ヨリ同時ニ又告來ル其書ニ曰
今卯剋ニ光秀一万三千騎丹波ヨリ京ニ
入ニ手ニ成テ向フ七千騎ニテ光秀八本
本能寺へ向フ若信長へ助勢アラントキ横
鍵ニカ、ツテ討へキトテ明智左馬ノ助
ヲ大將ニテ六千騎ニテ内野ニヒカヘテ
陣ヲトル卯下剋本能寺合戦初テ巳剋ニ
本能寺火カ、ツテ信長自殺シ玉フ

本能寺ニテ討死人面々ハ
森乱丸矢代勝介伴太郎左衛門伴正材村田
吉五澤田伊賀守小川愛平金森義入魚住勝
七今川孫二郎乾兵庫助狩野又九郎薄田與
五郎森力丸同小坊丸落合小八郎伊藤茂作
久々利龜松山田彌太郎飯河宮松九種田龜
介柏原鎬丸祖父江孫介大塚彌三同又一郎
平尾平助針阿彌津田茂助織田源三郎殿松
田主水正小倉松助湯淺甚介中尾源太郎高

橋虎松丸等十リ
右外逃散ノ者多右ノ分ハ不殘討死也此外
御馬廻衆五十三騎討死トハ申候へ共ニカ
トハ不知ニ依テ名ヲ記ス事不能ナリ
同日三位中將信忠ハ妙覺寺ニアリケルカ
本能寺へ馳合テ合戦スへキトテ妙覺寺ヲ
出玉フニ内野ニアリシ明知左馬允六千ニ
テ横鍵ニ城介信忠ノ勢へ馳カ、ル信忠少
勢ニ依テノタメ方ニ成テニ條新御所へタ

テ籠玉フ則左馬允スカサス六千ニテニ條
ヲトリニキ辰剋ヨリ午剋ニテ責戦フ少勢
ナレハ力ナク信忠終ニ自害シ給フサシモ
武勇之威ヲフルヒ四海ヲ掌之中ニ握リハ
荒ヲ加寸ノ謀ニマカセイクハクノ敵ヲウチ
ソコハクノ侍ヲウタセ漸天下ヲ治メ子孫榮
久ナルヘキ身ノ今日一時ニ父子共ニ黃泉
ニヲモムキ給フ世中コソウタテケレ
ニ條ヨリ信忠前田玄以齊ヲ江州へカヘシ

若公達ヲ尾州清冽へ退ヶ申へキ十日同日
二京ヲ立テ安土へ通ル觀音城ニ至テ右之
趣ヲ申キカセテソトヲリケル
同日二條ニテ討死ノ面々ハ
津田又十郎長利同勘七同九郎二郎同小藤
次菅谷九右衛門子角藏菅谷勝次郎山田十
右衛門澤田越中守猪子兵助村井春長軒子
清次同作右衛門平川十右衛門毛利新左衛
門安彦彦三和田勘介毛利岩丸齊藤新五郎

坂井越中守赤座七郎右衛門同助六和氣善
太郎井口平九郎櫻木傳七團平八服部小藤
太永井新太郎野々村三十郎篠川兵庫頭下
石彦右衛門石原主水正富田太郎左衛門澤
田武介下方彌三郎弟喜太郎塙傳三郎龜井
又五郎種村彦四郎春日源八郎寺田善右衛
門阿部佐平太福富平左衛門桑原吉藏伏田
三吉清水三郎兵衛三宅權内藤田仁右衛門
桑原九藏延川甚五郎小澤六郎三郎石田孫

左衛門平田万作宮田彦四郎平野新左衛門
同勘右衛門中山刑部少輔飯尾茂介長岡日
向守村井新左衛門服部六兵衛高橋藤九佐
々清藏山口十兵衛同小舟同半四郎木造七
兵衛村瀨虎丸小川源四郎神戶次郎作大脇
喜八犬飼孫三河野善四郎安元左近弓削新
兵衛石黒彦次郎越智小十郎中根市丞秋山
治兵衛淺井清藏水野惣介同丸藏井上又三
郎加藤辰介岡部又右衛門竹中彦八河崎與

介等也右ハ岐阜ヨリ供奉シタ人々大方カ
ニカヘテ記ナリ此外討死ノ面々多シ委ハ
重テ記ヘシ
同日酉剋ニ光秀京都ヲシメイ大津ニツク
是ヨリ勢多城主山岡美作守同對馬守兩人
ヘ光秀使ヲ以テ光秀ニ同志候ヘ天下ヲ治
テ候上ハ貴方兩人ニ江州ヲ不殘可恩補ト
云ヤル山岡光秀カ使ヲ討テヌテタテコモル
光秀是ニ依テ大津ヨリ坂本城ヘ來ル坂本

ニ光秀カ伯父長閑居タルカ唐崎濱ニテ光
秀ヲムカイニ出テ同道ニテ坂本ニ入ルナリ
三日觀音寺ニ八屋形義秀公他界ニテイニ
夕十日ニモスキサルニ又屋形ノ舅信長進士
ノヨシヲ今朝告來レハ上ヲ下ヘト騷動スル
處ニ進藤山城入道後藤喜三郎平井加賀守
入道澤田民部少輔阿閉淡路守磯野丹波守
馬淵源太郎伊庭入道池田伊豫守三上美作
守建部右近安茂日向守弓削主膳正和余七

後守堀伊賀守淺井土佐守目加多入道頼鬼
其外當番ノ面々集テ評義仕ルハ光秀信長
父子ヲ討奉テ既ニ昨夜坂本ニツクノヨニ
ナリイサ津田ノ入江ヨリ船ニテ堅田ニ渡
テ坂本ヘヲシ寄テ惡士ヲ討テ稚屋形ヲ上
洛廿世天下ニ旗ヲ立ント云是ハ進藤カ申
處也平井カ曰サアラハ山岡美作カ方ハ使
ヲ立テ大津ヨリカ、ト申ヤラントテ既ニ
美作方ハ人ヲヤルニ澤田民部カ曰光秀元

來氣ノ早キ男十リカク評義スル内ニ當城
ヘ向フヘシ初進藤殿力云通ニ定テ坂本ヘ渡
海世ヨト云テ觀音城在番ノ面々其外近キ
城々ノ面々都合一万二千ニテ船數百艘計
ニ大舟乗テ觀音城ヨリ坂本ヘ向フニ光秀
三日ノ辰剋ニ大津ヘ打立勢多ヘカ、ツテ
通ルニ山岡橋ヲ燒落ス則松本ノ土民ヲ集
メ船橋ヲカケ渡テ光秀ハ下道通ヲ守山ニ
著陣スルニ屋形ノ人數ハ不殘堅田ヘ上テ

坂本ヘ向テ合戦スル元ヨリ坂本ニハ光秀力
子共三人伯父長閑計ニテ其勢四百計ナリ
味方ノ勢唯一戦ニ責落ス則明知長閑并光
秀ガ子三人カ首ヲ柳カ崎ニ獄門ニカクハ
十リ然ニ光秀守山ヨリ觀音城ヘ向テ合戦
スルニ大方一手ノ大將分ノ衆ハ坂本ヘ向
テ不居唯前屋形ノ近習計二百騎ホト其外
遠所ノ旗頭衆五人都合三千騎ニ足サル勢
ニテ戰フニ蒲生氏郷カ家人新庄ト云者光

秀二頼レテ箕作ノ方ヨリ三ノ丸へ入テ火
ヲカクルニ風甚クシテ觀音城ノ本丸へ火
カ、ルニ味方大方討死ス光秀カ人數ハヤ本
丸ト國ノ間ノ御殿マテ責上ル處ニ若狹局
先考ノ御鎧著太刀ハキ當年六歳ニ成玉ヲ
稚屋形ヲイタキ後馬ニ乗テ北坂口ヨリ落
玉ヲカ池田孫十郎箕浦次郎介鯨江權之佐
十十見ツテ奉テ御供ニ參ス池田稚屋形ヲ
急度見奉ルニ紫色金襴ノ袋ニ入タル御家ノ

金渥卷計ヲ御頭ニカケ玉フヲ池田若狹ノ
ツホ子ニ向テ曰此御一卷ハ代ニタメシナキ
物成ヲ稚人ノ御首ニカケサセ申テ落行ナ
ラハヤカテ光秀カ者共稚屋形ト見知テサ
カニ出ニ申ヘキト申セハ若狹局ノ曰サレハ
他國ニテハ其理家ヨカルヘニ自國ニテ稚
屋形居城ヲ落行玉へハ土民ニテモ先祖普代
ノ君ヨト知セニタメニワサト此女カ戈覺ト
ニテ如此仕ソトテ箕浦ノ城へ落行玉フ江

洲入替合戦ト申ハ是ナリ
四日安土在番蒲生右兵衛父子信長ノ若公
達御基ヲ日野ノ谷ヘ引退奉ル此時蒲生安
土ノ番衆ヲイサナイテ観音城後詰ニ來ル
ホトナラハ光秀ハ討死スヘキニ今ニ不始
蒲生カ大臆哉ト江州ノ侍ハ申ニヤ土民ニ
及フマテツマハレキニテケリ
同日光秀老曾ニ陣ヲスヘテ明五月卯刻ニ
安土ニツキテ悉城中仕置ニテ同名左馬允

三二千五百騎ヲソヘ安土ニシク
五日坂本ヘ向フタル観音城ノ勢共坂本ノ
合戦ニハ打勝トイヘ共観音城又責落サレ
ケレハ十方ニクレテ何モ大津ニ集居ケル
ニ稚屋形観音城ヲ落玉フテ箕浦城ニ御座
ノヨレヲ聞テ何モ大キニ悦テ急又舟ニ乗
テ大津ヨリ箕浦ヘ渡テ稚屋形ヲ守立奉ル
半落行テ光秀カ天下ト心得テ彼手ニ付モ
アリ尾州十トヘ落ルモアリ是ヨリ江州屋

形ノ破レ初ル事ソ無念ナレ
六日光秀安土ヨリ京へ上ル筒井順慶ヲ頼
ニテ人ヲツカハストナリ筒井同心セス然ニ
織田七兵衛信澄ヲ織田三七ト丹羽五郎左
衛門兩人シテ足崎ニテ殺申スナリ五畿内
ノテイ武士モ主君ニ迷ヒ工商モ産業ヲ失
ヒ人之心海上ニ舟筏ヲ得サルカコトシ徳川
家康泉洲堺ニ穴山同道ニテ有ケルカ世間
之安危ヲウカヒテ頼而伊賀路ヲヘテ三

洲へ又引取ラル
羽柴筑前守秀吉ハ信長ノ討音ヲ聞テ安カ
ラ又事ニ思ヒ龍ノ雲ヲ起シ虎ノ風ニ嘯カ
ケ用夕中國ヨリ發起シテ今月十二日山崎
ニ陣取テ先光秀方へ使節ヲ立今日夜ニ入
ル人間明日十三日白中ニ合戦アルヘキト
ナキコトケル
十三日辰剋山崎表合戦初ナリ光秀イラツ
テ川ヲ渡ス秀吉兼テ期ニタリケニ光秀カ

軍兵半河入圖ニアタツテ秀吉足輕大將ニ
進ステ鉄炮ヲ打カクル事雨ノコトニ秀吉
取モ圖ニアタル合戦也入チカヘモ三千カヘ
カケツカヘシツ責戦フ光秀カ兵敗北シテ
討死スル者二百五十人其外京へ逃入光秀
ハ同名庄兵衛進士作左衛門村越三十郎山
本山入三宅孫十郎ト云者五人又召連テ伏
見へ落テ行ケルカ山科ニカ、リテ江州へ落
ルトテ運命ノツタナサヨ山科小栗栖ニ到

テ云ニカヒナキ野人ニツキヲトサレテ最期
ノ首尾ハヒラ子共頸ハ京都上テ四條河原
ニ獄門ニソカ、リナル
十八日光秀カアト預リ玉フ面々十二人ナリ
日記ニトムルニ不及
北日諸將寄合アル連衆ノ内大將分ハ羽柴
筑前守秀吉龍川左近將監柴田修理亮勝家
此三人當年ヨリ何事モ天下ノ執權ヲセラ
ルナリ雖然早秀吉總大將ノコトクニソ見

五二ヶル

當年ノクレヨリ同十二年、テ入信長ノ一家
并柴田瀧川羽柴四五人ノ大將建國ヲ争ヒ
合戦アレ共江州ノ屋形無世ナレハ旗頭等
昔日ノ十分一二成テ稚屋形ノ成長ヲト守立
ルノ間度々ノ合戦ニ出ス又三人ノ旗下ニ
付者共アレ共礼ヲ背ノアヒタ日記ニト、
メススヘテ江州ノ屋形ヨリノ勢ツカイ十
キ事ヲハ不記也

當年ヨリ佐々木御神事三月三日ノハナニ
神寶已下當國大乱紛失ヤウヤク四五兩月
ノ神事ヲ常樂小中慈恩寺中屋四村民共ツ
トムル計也昔ノ社領ノ村々ナリアワレハ
月之事共也木ノ縣事味ハ

天正十六 癸亥年

柴田勝家與秀吉江州シツカタケニツイテ
合戦勝家敗北即於越前北在生害ナリ具有
別記不記之ヲ

天正十七二年

合戦三月小北山合戦
八月コトキ山合戦

四月大

自七日佐々木ノ神事初ル

九月長又手合戦日記其合戦ニ逢テ戦タル

家ニ有ヘシ當國ニハ不知依テ不記

十二日當日昔日ノ例一モナシサヒシカリ

神祭ナリ

紀伊國雜賀并ニ根來寺秀吉卿破却之

共ニ五月小寺共火入此日無難ノ味ナリ

五日佐々木ノ神事去月晦日ヨリアリ

山州三十一身二頭ノ子ヲ産タル女アリ

前九月大

朔日秀吉江州ノ旗頭等ヲ呼出ス淺井土佐

栄目加多入道頼鬼兩人秀吉召ニ應テ出ル

秀吉前屋形義秀公ノ一字ノ恩ヲ思所ナリ

稚屋取ヲ箕浦城ヨリ呼出シ申セ秀吉昔日

外恩ヲ送ラ一トノ事ナリ依之雅屋形義郷
當年八歳ニテ御座スヲ上世奉ル則秀吉江
別ニ於テ名字相續ノタメニトテ一郡ヲ與
以當年六月ヨリ秀吉天下ノ主ト成テナリ
前代未聞大大將ナリト世以テ云

天正十三酉年

三月大

廿二日根來寺兵火ス此ヨリ破滅ノ初ナリ

陽曆七月小

秀吉任關白

八月大

廿三日佐々木黒田美濃守源識隆卒ス行年

六十一歳法名宗圓前下野守重隆嫡男ナリ

屋形ノ氏族タルニ依テ日記一トム

潤八月小

十三日江洲織山ヨリ光物出比良山へ行同

廿四日一テ前屋形ノ神靈ト國人等云合十月

今年二條昭實公卒ス行年三十歳此母公ハ

前屋敷ノ伯母氏細公ノ御女タルニ依テ日記ニ入

十月小

朔日秀吉北野大茶湯アリ

天正十四年

正月小

十四日戌剋江洲日吉社ヨリ光物出テ觀音寺ヘトヒ行ク國中日中ノコトニ

卷吉四月小

大水ニテ江湖九合ニ成テ浦々ノ在ク百四十五箇所家ヲ水中ニシテ余村ニ移ル

七月小

廿四日陽光院崩御シ玉フ

十一月小

七日讓位同廿五日ニ即位關白秀吉公上洛

有テ御下知同廿七日ニ江陽屋敷少將ニ成

玉フ是關白秀吉公ノ仰ニ依テ諸大夫ニ成

玉フヘキヲ父參儀タリ何ソ下官ニ任セン

トノ義也甚當家御眉目ナリ
關白秀吉公姓ヲ改豐臣
十二月大々十日ニ
石山寺ノ山ヨリ赤氣立ツ事アリ十二月ノ
間諸人奇異ノ思ヲナシテ彼山へ參詣スル
事夥シ

天正十五年刻年

禁裏仙洞宮ニ御所ニ至ルニテ關白秀吉

公修理ヲ仰付テ殊禁裏ヲハ造營ナリ

十四三月

三日佐々木御祭礼アリ稚屋形社參ナリ旗
頭等少々供奉ス同中旬ヨリ關白秀吉公絶
タル家々ヲ改メテ今以立玉フ天下ノ上下
時ヲ得テ繁昌ス

十三五月大表吉公

五日佐々木御祭礼京極ノ家人ト石田治部
少輔三成力家人ト祭礼ノ前ニテ喧嘩シテ

雙方ナウホツ共六人死ス

正月九月大津藩大津藩家入家入千石田千石田...

十三日關白秀吉公聚樂城聚樂城移徙移徙此所此所八昔八昔日

大内裏大内裏之舊跡也内野ノ事也今ノ北野ノ東

モ十リ橋橋之西也

天正十六天正十六城年城年

三月三月大津大津...

十四日地震地震

廿日ノ夜星貫月星貫月...

天四月小天四月小

十四日主上關白秀吉公聚樂ノ館館ニ行幸行幸御

一宿也

十月小十月小

朔日義卿公ヨリ大閣秀吉卿へウツタヘラル

事有江州比良山江國寺之僧領ノ義也秀吉

公不可之依石田三成三成讒言也

天正十七天正十七年

關白秀吉公江州ノ屋形義卿公ニ命テ山門

ノ焼^{ヤク}アト^ト又^{マタ}建立^{ケンリツ}シテ中堂^{チュウドウ}領^{リョウ}一千石^{イツセンシヨク}寄附^{キヨツク}ス
僧房^{ソウボウ}不過^{トス}十四房^{シヨウボウ}

公不^{キミナ}十一月小^{イツチツコ}

四日^{ヨウジツ}關白秀吉公江州竹生嶋^{タケノシマ}へ參詣^{サンギ}

十一日^{ユヅリツ}關白秀吉公義郷^{ヨシキョウ}ヲ三日ノ遊興^{ユウキョウ}アリ

十二月大

二日^{ニニツ}義郷公多賀社^{タカガヤ}參詣^{サンギ}當家^{トウケ}郷一代^{キョウイチダイ}ニ一度

參詣^{サンギ}也^{ナリ}有^{アル}故^{コト}

天正十八^{テンシヨウハチ}年^{ネン}

北八七月大^{キタハチナナツキオホ}

十一日^{ユヅリツ}關白秀吉公相別^{サウベツ}北條氏^{キタジョウジ}政^{セイ}ヲ責落^{セメノト}ス

氏政^{ウヂセイ}自害^{ジガイ}子氏直^{ウヂナオ}ハ大坂^{オオサカ}へ上^{ノボ}ル後^{ノチ}ニ高野山^{タカノヤマ}

ニ入^{イリ}病死^{ビョウシ}此時^{コトキ}ノ日記^{ニヒジキ}紛^{マシ}失^{ウシ}委^ケ不能^ス記^ス秀吉公^{ヒコヨシキミ}

奥州^{ウチウチ}征討^{セイタク}伊達^{イダツ}佐竹^{サタケ}家^ケ上^{ノボ}南部^{ナンボウ}悉^{シツ}ク降^{カク}參^{サン}奥州^{ウチウチ}

關東^{カンドウ}八州^{ハチシュウ}相摸^{サカミ}武藏^{ムサシ}安房^{アノ}上^{ノボ}総^{ソウ}下^ゲ総^{ソウ}常陸^{トコノチ}上^{ノボ}野^ノ

下野^{シモノ}出羽^{デフ}越中^{エツチュウ}越後^{エツゴ}佐渡^{サツ}忽^{トク}入^{イリ}掌^テ中^{ナカ}

天正十九^{テンシヨウジュウ}年^{ネン}

三月^{サンゲツ}二月^{ニゲツ}大^{オホ}

三日東ニ赤氣アリ如旗又龍虎ノコトクノ
雲坤ニアリ黒雲ナリ

丁卯四月少雨
十一日佐々木官祭礼

貞代五月大雲

廿六日江州比良山燒失三日燒夕江州ヲ内
黒雲ノ覆カコト夕諸人眼口ヲ開キ兼タリ

六月
廿八日大雹下ル諸鳥ナトウタレ死ス

文正十二年

廿八日三好次兵衛尉秀次ハ關白秀吉公ノ
甥成リシカ關白ニ今日任セラルル前代未聞
ナリ諸人不又ト云

廿九日前關白秀吉公天下ノ權ヲ秀次公ハ

讓ラル
文祿元年

正月

大閣秀吉公當關白秀次公朝鮮退治有ヘキ

人評義アリ小宮關白泰大公贈平海公

三月

尤六日關白秀吉公御父子諸國ノ大名等ヲ引率シテ今日大坂ヲ立テ朝鮮國退治トシテ西海ニ赴キ至フ日記紛失ノ間委ハ重テ可考ヘシカシカフ人不知ヘシカシカフ同年遂秀吉公兵ヲ所々ニ遣テ朝鮮ヲ討テ皇子ヲ擒來ル也朝鮮國八州本朝ノ手ニ入タル國々凡下ノ諸國ナリ

平慶尚道 全羅道 忠清道 京道

黃海道 江原道 咸鏡道 平安道

正○右付國々 西生浦 釜山浦 東萊 熊川

安骨浦 唐嶋 感昌 忠州

等ナリ是ヨリ朝鮮國本朝ノ下ト成テ貢物

ヲ進獻ス誠秀吉公神功皇右以來ノ良將夕

リ吾朝ノ神妙ノ武將ナリト云

五月

同大其日了了政代三并中ノ不

朔日ヨリ同廿九日ニテ江州三井寺ノ鐘不

鳴依之自皇家三井寺開山ノ廟所ニ於テ三

十余座ノ大護摩ヲ寺ヘ仰付ラル

今年洛下東寺塔再興檀越天瑞寺殿也

文祿二巳年

正月

五日太上天皇崩御号正親町院泉涌寺ニ奉

葬御諱名ハ方仁後奈良院之太子也弘治三

年十月廿七日踐祚元年ハ在戊午至永祿三

年正月廿七日正即位玉ヲ天正十四年十一

月七日讓位玉ヲ在位ハ廿九年也神武百七代

以天子也

同年春箕風城州伏見城ナワハリ始ル

四月

九日豊臣人若公誕生母ハ淀ノツホ子ト云

江州ノ旗頭淺井下野守祐政長子淺井備前

守長政カ女タリ嫡女ハ京極若狹守高次妾

也長政カ女三人有リ何モ今世人美人列リ

長政カ女房竹生嶋へ祈テ曰男女ニ不限天
下ニ權ヲトル子ヲサツケ玉ヘト祈テ十一
年ノ間毎年六月ニ天女ヲ嶋へ渡シ玉テ祈
ルニ既ニ女三人ヲ産タリ此淀ノツホ子ヲ
ハ當屋形ノ御許ニヲキ玉イシカ秀吉公ヨ
リニ柳越後守ヲ以テ度々所望ニ依テ三年
以前天正十九年ノ十一月ニ大坂へノホ世
玉ヲナリ淀ニ御座有ニ依テ号淀局此若公
以後ニ秀頼ト申ス

先帝崩御ニ付テ五畿七道物毎ラツ、レムニ
當關白不行義ナレハ京童共落書ニ曰

先帝ノ手向ノタメノ狩ナレハ是ヤセツレヤウ關白トイフ
父大閣此事ヲ聞玉ヒテ秀次公ヲイサメ玉フ

百日ニ余テ父子中絶シ玉フ
惟杏和尚考倭史神功皇后征伐天幹東漢獻
帝建安五年也今至文祿二年千六百卅三年也

文祿三年

大關二月

大閣カク諸國ノ守護人ニ仰付テ山別伏見ニ城ヲカマヘ玉フ

廿五日秀吉公吉野山キノノヤマ華見也ハナミ十六百廿三年

三月

三月秀吉公高野山タカノヤマ參ラル

父大閼七月

廿二日秀吉公東寺ノ塔タヲ建立ス

十月

十三日江州長命寺チカノイニヨリ光物出ル

同十二年日秀吉公高野山タカノヤマ木槍キヤウ士シ入ル

四月大坂町ニ惡徒アクトアリ七十三人不殘スレ搦捕カサメ

テ誅ナグシ玉フ是ハ大坂町六方ヨリ火ヲカケ

テ男女十方トホウヲ失ハセテ金銀重器等オモキヲ取トク

トノ事也ト云

文祿四チチ年

三月佐々木御祭礼申シ剋神輿シヨヨリ光サス希キ

代ノ事也去月ヨリ神事始ル

五月

十四日松下兼綱卒ス屋形ノ氏族タリ

廿五日當關白秀次公^{タカトキ}遊心ノ事既ニアラハレテ

同七月十二日ニ高野山ニ入玉フ十三日ニ

秀吉公ヨリ檢使トシテ福嶋左衛門大夫福

原右馬助池田伊豫守ニ五千三百騎ヲサシ

ソヘ秀次討手トシテ今日伏見ヲ立テ高野

山ヘ向フ

同十五日關白秀次公高野山木食上人ノ寺

ニヲイテ自害ナリ御供ノ面々山本主殿頭

同三十郎不破滿作篠部淡路守等ナリ篠部

八關白御介錯申候

同十七日ニ關白秀次公ノ御首次ニ供ノ面

々ノ首伏見ニ上ル則十八日ニ石田治部少

輔三成奉行トシテ三條川原ニ關白秀次公

ノ首次ニ供ノ面々ノ首ヲサラス

當關白秀次公ニ伺公ノ面々ノ内御一味仕

ル衆申誅罰ノ事

熊谷大膳亮 白井備後守 木村常陸守

同志摩守

右四人ハ江州屋形義秀公ノ近習タリシカ

江州クツレテ後當關白ニ仕奉ル

阿波木工丞 日比野下野守 山口少雲

丸毛不心 一柳右馬介

右九人所ク於テ當座ニ切腹ス

御顔面々

一柳右近大夫同妻子共 江戸大納言

明石右近同妻女共 小早川左衛門佐

伊藤加賀守妻子共 越後少將

服部采女正妻子共 同人

前野但馬守妻子共 中村式部少輔

但馬子出雲守妻女共 同人

吉田清左衛門渡瀬左衛門 佐竹修理大夫

玄羽紹巴安志 福嶋左衛門大夫

此三人後赦免

一江州ノ屋形右兵衛督義卿ハ江州ニテ十

二万石ノ知行召上ラル其身ヲハ何ノ國
ニモ可住ヨシノ上意ナリ秀吉公ノ曰義
卿ハ廿歳ニモ不足人ナレハ但家老共ノ
行ナリトテ知行計ヲ召上テ其身ヲハ預
ケ玉ハストナリユレヨリ江別ノ屋形ノ
家破滅ス

義卿ノ御料ハ家來鯨江權佐カ女ヲ關白
へ進ニタルニ依テナリ其上關白ノ家老
熊谷白井木村等ハ前屋形ノ近習ナレハ

内々義卿ヲス、メ關白秀次公ト志ヲ合
ラルトノ科ナリト云

一大御所秀吉公石田三成ニ仰付テ秀次公
ノ思人共其外君達ヲ殺スナリ

秀次公嫡男仙千代九五歳尾張國住人日比

野下野守女ノ腹ナリ

同姫君六歳攝津國小濱御局女中納言局ノ

腹也

同御百丸山口少雲女ノ腹也

同御十九北野松梅院女人腹也

同御ツ千九江州義卿ノ家老淺井土佐守女

ノ腹也六歳時對國心齋齋忌女中階官母ノ

同日殺女房達目錄次第

一番大上臈御方一タイツホ子卅五前大納言御女

二番小上臈御方ラツ十六歳三位中將御女

三番中納言佐御局ラカメ卅七津國小濱御局女

四番ラコワ前十八日比野下野守女

五番ライト前十九山口少雲女

六番ラエン前廿四

七番ラサコ前卅三

八番ラマン前卅三

九番ラヨメ前卅六

十番ラアコ前卅八

十一番ライマ前十五

十二番ラセキ前三十

十三番少將前廿九

十四番左衛門督三十

淺井土佐守女

松梅院女

多羅尾彦七女

堀田次郎衛門女

乾備前守女

出羽最上義光女

秋羽道閑女

肥前國本江主膳守女

岡本美濃守女

十五番右衛門督世五

村井善右衛門女

十六番妙心ミラシ八十六

秀次公内通女トヨツネノカミ屋十リ

十七番ヲ三ヤ前十三

一ノタノ御女

十八番ヲキク前十四

伊丹采女イタニノウチ正文メノカミ

十九番カツレキ前十五

坪内市右衛門女ツチノウチ

二十番ヲマツ前十二

右衛門督御女

廿一番ヲサイ前廿六

別所三左衛門女ベツショ

廿二番ヲコホ前十九

鯨江權佐女オホツエ

廿三番ヲカト前十七

越前國百姓女

廿四番ヲステ前廿一

京町人女

廿五番ヲアイ前廿三

古川主膳正女フルカハ

廿六番ヲイマ前廿五

大屋三川守女オホヤ

廿七番ヲマキ前十六

齊藤平兵衛女サイトウ

廿八番ヲクマ前廿二

大嶋次郎右衛門女オホシマ

廿九番ヲスキ前十九

木村清兵衛女キムラ

是ヨリヲスヘ衆

三十番ヲアヤ三十四

卅一番東六十一

卅二番ヲサン三十二

卅三番ツホ三

卅四番千ホ

右八月二日二京中車ニテ渡シ四條橋ヨリ西ノ土手キワニテ誅ス前代未聞アワレナリ十三日秀次公母公出家村雲御所ト申奉ル

慶長元 申年

今年德川家康公内大臣ニ任セララル高懸遊撃將軍來テ請和ナリ天下羸

潤七月

十二日大地震諸國ノ民屋等破倒ス

八月

十四日諸國不殘降毛長四五寸余リ同日西方赤氣アリ如人形

慶長二 酉年

七月

十八日善光寺如來京著新大佛ノ本尊釋迦退之如來大閣之請命也

八月

廿八日前將軍室町殿源義昭公他界春秋六十一歳靈陽院殿ト申奉ル

十二月

四日江州内古城共破ヤラ八秀吉公依仰テ十日六

十慶長三年戊辰

正月大關之書命出

廿日秀吉公ヨリ為華見醍醐山普請初ニル

二月

晦日佐々木松下石見守源之綱法名長參卒キツチ

六十二松下若狹守長則力嫡男夕キタエリ弘治元

二前屋形義實公ノ勘氣ニ依テ三洲碧海郡コウヂ

松下ニ住ス依テ号ス松下元ハ江州西條ノ庶流夕リリ

三月

十四日江州前屋形義秀公之後見箕作左京ウラミ

大夫從四位下行源義賢入道カマ拔關齊兼禎卒

号梅心院此兼禎ハ前屋形義秀公ノ祖父雲クモ

光寺殿ノ舍弟箕作彈正少彌定頼嫡男也サト

十五日秀吉公夕イゴ華見也此時當屋形義

卿公家礼小川土佐守新庄雜齋同東玉等ニ

申付山中ニ茶屋カニヘ秀吉公慰于時義卿公
聞説醍醐華世界見來此處聖乾坤

秀吉公御當座ニ曰

天下殘ラ又華ノ盛ニ八山ヨリ山ヤ風ニホフラン

八月

十七日善光寺如來飯國

十八日前關白從一位豊臣秀吉公他界行年

六十三歳

廿二月大佛殿ヲ落慶ス并供養棟上導師照

高院三寶院天台真言合三百人自於三間堂
二行歩行也

廿九日秀吉公ヲ東山ニ葬實ハ吉野ニ葬ト云

九月

三日秀吉公ノ遺物トシテ大兼光刀江州ノ

義卿公へ來ル此刀ハ先考義秀公ヨリ諱字

ヲ秀吉へツカハシ玉フ時秀吉公ヘヲクリシ刀

也今又元ニ飯事不思義也

十一月

二日東ニ客星アリ

慶長四 年

四月

十八日 豊臣ノ 厩号ヲ 賜テ 豊國大明神ト申ス

十月

四日 江州志賀ノ 八幡宮ヨリ 光出ル

慶長五 年

斐天寺 造營ア 則山ノ 築瓦ノ 吉禮ニ 奉行ス

六月

十六日 内大臣家康公 同中納言秀忠 卿會津

上 叔景勝 退治トシテ 進發ス

七月

十四日 東西方 毎夜 旗雲起

十七日 家康公 退治ノ 夕メニ 石田治部少輔

三成毛利 右馬頭 輝元 長東 大藏大夫 増田 右

衛門尉 大谷 刑部 少輔 前田 德善 院小 西攝津

守安 國寺等 大坂へ 集テ 東國 退治ノ 評定ア

リ 江州 前管領 右兵衛 督義 卿へ 秀頼 公上意

トシテ 北國 表へノ 大將 致サルヘシ 其義ニ

タイテハ大閣以來ノ勘氣ヲ許シ本領安堵
アルヘキトノ奉書義卿へヤル使ハ南條伯
耆ナリ義卿不請大坂ヨリノ奉書ヲ返ス依
之北國表ノ大將ナクシテ大坂ノ面々難義
ストナリ重テ石田三成義卿ヲ頼江州一國
ノ勢ヲ差添ツカハサント云終義卿兼引ナシ
依之北國へノ勢ツカイナシ

十八日大坂ヨリ伏見城代へ使ヲヤル城代
松平主殿頭同五郎左衛門鳥井彦右衛門内

藤彌三右衛門息小市郎澤田民部少輔大坂
ヨリノ使ヲ討テステ兼引セスアマツサへ近
邊ヲ焼拂テ籠城スルニ依テ大坂ヨリ伏見ノ
城ヲ責ル寄手ハ筑前中納言備前中納言増
田右衛門長東大藏大夫嶋津兵庫頭等大將
トシテ其勢三万六千騎七月晦日ニ伏見城
ヲ取卷責ル三度ノ開アリテ合戦初ル然ル
處ニ江州甲賀ノ住人堀十内山口宗助一門
四十二人ウラカヘリ子刻ニ敵ヲ引入松丸又

殿守ニ火ヲカクルニ城中十方ヲ失テ討死
ス明ル八月朔卯剋ニ伏見落城ス城中ノ大
將不殘討死ス
光二日ヨリ客星出ル天下疫病人多死ス
四年八月
二日大津ノ城主京極若狹守高次へ大坂勢
ヨリ使ヲヤル高次使ヲ討テ同心ナシ依テ
二日ノ未剋ヨリ大坂勢大津ノ城ヲ取卷
キ合戦十リ寄手ノ面々ニ立率左近將監

伊藤民部少輔安藝中納言備前中納言增田
右衛門長束大藏大夫嶋津兵庫頭堅田兵部
少輔坂田作左衛門石川民部少輔高田小左
衛門澤田刑部少輔備中守筑紫上野介久留
嶋藤四郎南條伯耆同中勢石川掃部頭木下
備中守等ヲ大將トシテ都合八万三千騎ニテ
二日ヨリ四日ニ至テ責戦フ四日ノ午剋ニ
アツカイ有テ京極高次城ヲ開キ渡シ高野
山へ退ヘキニ相定テ諸將是ヨリ美濃國關カ

原へ向フ増田右衛門尉石田ニ向テ曰志賀
北郡へ勢ヲツカハシ義卿ヲ責退ケント云
石田三成カ曰大事ノ前ノ少事也義卿コト
キノ世ニナキ者ハ味方ノ天下ニ成ル時ハ
ヒトリ降人ト成テ來ル物ナリ寂度々北國
表へノ大將ヲ頼ム處ニ兼引セヌハキツクワ
イナレ共義卿ヲ責討ハ江州一國ノ士民等
先祖普代ノ者共ナレハ百姓等一揆ヲ發ス
へレシカラハ濃別へノテツカイ延引シテ

一定味方利ヲ失へレト云是石田三成力金
言ナリト後マテモ云トナリ

六日西國大坂ノ諸將等伏見大津ノ二城ヲ
責取テ大キニ軍利ヲ得テ今日濃別關カ原
ニ陣取テ東國ノ勢ヲ待請テ合戦セント評
定アルト云

同日伊勢口へ山口十兵衛尉九鬼大隅守ニ
四千騎ヲソヘ舟ニテ尾三ノ浦へ渡海シ
テ家康持ノ城ニ放火スヘキトテヤルナリ

又北國表へハ加藤主膳正澤田豊後守二諸
率人其外集勢ヲサシソヘテ江州七里半へ
向ス此ヨリ上方ニテ家康公味方ノ城主共
ヨリ武州江戸へ早馬ヲ以テツクルニ結木
相公秀康卿ヲ江戸ニ殘シテ中納言秀忠卿
ハ東山道ヲ賣上ラル秀忠公ニ供奉シ上ハ
面々ハ榊原式部少輔森右近大夫大久保頼
攢守酒井右兵衛佐本多佐渡守其勢五万七
千ナリ又東海道ヲ上ル家康公ノ先手ハ六

羽柴左衛門大夫同刑部少輔福嶋掃部頭京
撫丹後守織田有樂同河内守山名禪高金森
法印同出雲守黒田甲斐守加藤左馬助山岡
道阿彌藤堂佐渡守羽柴三左衛門池田備中
守有馬法印同玄番田中兵部少輔伊賀侍從
羽柴越中守淺野左京大夫生駒讚岐守小出
遠江守徳永式部卿法印同左馬助蜂須加長
門守堀尾帶刀中村式部少輔富田信濃守山
内對馬守九鬼長門守市橋下総守稻葉藏人

古田兵部少輔桑山相摸守龜井武藏守寺澤
志摩守石川玄番允佐久間河内守石川伊豆
守丹羽勘介中川半左衛門戸川肥後守村越
兵庫頭本田因幡守佐久間又右衛門等ヲ上
セラルツ、イテ井伊兵部少輔本田中務ヲサ
シソへ八月朔日武州江戸ヲ立テ同十四日
未剋ニ諸勢悉ク尾州清洲ニ着陣ス
十五日關東ノ軍勢美濃國へ打越對陣ヲハ
ル敵味方人數ヲ出シ日夜合戰アリ扱又北

國口ニテハ羽柴筑前守今月三日三田山ヲ越
テ大聖寺表へ取力、リ合戰スルニ城主成
田左衛門佐山口玄番允息右京進玄番掣山
口源内等外構へ打テ出戰ニ羽柴筑前守力
勢利ヲ得テ山口成田ノ大將共井家人七百
騎討死スソレヨリ羽柴筑前守勢ヲ打入テ居
城金澤へ引取ルニ小松ノ城主丹羽五郎左
衛門打テ出筑前守力勢ト戰テ大半討取リ
リ此時筑前守一日ノ内十死一生ノ合戰三

度アリト云

イ、木曾川

廿二日關東ノ勢七万六千騎河田ノ渡ヲ上
下ヨリ渡テ岐阜城ヲ取卷ク岐阜ノ城主織
田城介信忠ノ嫡男岐阜中納言秀信家礼木
造左衛門佐百々越前守ニ三千二百騎ヲ差
添テ木曾川ヲ防クニ家康公ノ勢川ノ上下
ヲ渡スニ依テ秀信ノ先手防ニカナク敗北
ニテ岐阜へ馳カヘリテ城ニタテコモルニ家康
公ノ勢勝ニ乗テ城キワニテ追ツメ戰フテ

首數四百余打取トナリ酉剋ニ合戰終ル

廿三日岐阜表合戰卯上剋ニ初テ所々ニテ
戰フニ岐阜勢度々敗北ス敵味方勸トモ多
委ハ日記ニト、メ難シ

同日申下剋福嶋左衛門大夫アツカイニ入
秀信城ヲ開キ渡スナリ

右合戰以前秀信手勢計ニテハ關東ノ大勢
防キ難キニ依テ大坂へ使ヲヤリ加勢ヲ請

ント云ヤルニ石田三成評義ニテ嶋津右馬

頭ヲ岐阜へ加勢トシテ差越スニ定リケレ
共又評定違テ大坂ヨリノ加勢ナシト云ナリ
秀信ノ人質ニハ母公并ニ今年ニ歳二十リ
至フ姫君同母共ニ大坂へツカハシヲクナリ
姫君ハ秀信ノ倍臣和田孫大夫カムスメノ
腹トソキコヘケル

廿四日戌剋ニ秀信ハ尾州コヲリト云處へ退
キテ同年十月未ニテ逗留ニテ同月ノ廿八
日ニ高野へ入至フ

秀信ノ人數ハ都合六千五百三十騎ナリ
秀信今度ノ合戦旗等ノ事

旗ハ白旗ニ幅瓜紋アリ 大馬印ハノウレニ三瓜紋

小馬印ハサギノ三ダニコ 番指物ハ思々ナリ

秀信番サニ物ヲ思々ニスル事ハ小勢ヲ大
勢ニ見セシトノ行ナリト云

秀信家礼ノ者共ノ中今度合戦ニ甚勸タル

者ハ木造左衛門佐百々越前守兩人ハ先手
ナリ其外梶川戈次郎武藤介十郎入江左近

飯沼十左衛門安達中書山田又左衛門瀧川
治兵衛和田孫大夫齊藤齊宮津田藤右衛門
織田共部十野左兵衛伊達平右衛門秀信御
弟織田左衛門大岡左馬介等也

秀信ニ付テ高野山へ入タル者ハ伊達平右
衛門安達中書竹内三九郎荒川木工左衛門
山井采女正高橋一徳齊森左門越地太左衛
門等ナリ
秀信岐阜ヲ開キ渡サルニ付テ大坂ニ於テ

母公并姫君ヲ殺ス處ニ秀信家人和田孫大
夫ト云者秀信ノ仰ヲ兼テ八月晦日ニ大坂
ニテ人質ヲ盗ムニ母公ト姫君ノ母トハ夜
中ニ落行ニ行歩不叶ニ依テ道ニテ母ヲ差
殺奉テ首計ヲ下人ニ持セ當年ニ歳ノ姫君
計ヲ孫大夫ヲイ奉テ家人一人ニテ江州へ
落下ルナリ此孫大夫ト云者ハ江州先方ノ
時甲賀ノ郡ノ旗頭和田大藏大夫高盛力
子ナリ

岐阜城落ル日瑞藏寺三箇所ノ取出モ落城
ナリコノヨリ關東ノ大將中納言秀忠卿ヨリ
武州へツグルニ内府家康公同下野守勢ヲ卒テ
九月朔日ニ武州居城江戸ヲ立テ同十四日
ニハ美濃國赤坂ノ丸山ニ家康公旗ヲ立ラ
ル此ヨリ西國ノ勢ヲ見渡スニ陣ヲ十七備
ニ取ル石田治部少輔長束大藏大夫増田右
衛門大谷刑部少輔前田德善院安國寺筑前
中納言備前中納言小西攝津守龍藏寺小野

木縫之介小川土佐守石原隱岐守澤田伊賀
守乾豊後守長曾我部土佐守安藝宰相吉川
駿河守鍋嶼信濃守五嶋太和守平戸法印布
施屋飛彈守王置小平次熊野新宮高橋九郎
有馬修理進秋月三郎青木紀伊守太田飛彈
守高橋主膳堅田兵部少輔成田中書岡部又
十郎對馬侍從脇坂中勢打木信濃守森長門
守同豊前守糟屋内膳正小早川左衛門佐赤
座久兵衛尉嶋津兵庫頭等ナリ其勢八万六

千騎ナリ

同十五日關カ原合戰卯刻ヨリ初テ西國勢
敗北ス午刻ニ悉西國勢追討ニ成ル嶋津ハ
伊勢路へ落テ和泉へ出テ堺ノ濱ヨリ舟ニ
テ國へ退ク其外ノ面々ハ當座ニ關東へ降
參スルモアリ江州北郡へ落テ若狹國へカ
カリ落モアリスクニ大坂へカヘルモアリ
逆心ノ大將石田三成ヲハ佐保山ノ近所藪
原ヨリサカヒ出シ生捕ニ成ル小西攝津守

行長安國寺モ所々ヨリ尋出サレ生捕ニ成ル
關カ原合戰西國勢敗北ノ事ハ金吾家來平
岡半右衛門稻葉内匠ト云者主人金吾ヲ諫
テ家康公へ忠功可然トテウラカヘラセテ
今十五日午刻ニ金吾六千七百ニテウラキリ
シタルニ依テ西國勢忽敗北スルナリ
十九日石田三成等洛中ヲ雜車ニテ渡テ六
條川原ニテ誅シ首ヲ獄門ニカクル其後家
康公父子大坂ノ城ニ入テ北國西國ノ成敗

葉之上行^ツ兵秀頼今年八歳十^ハ家康公殊
外^ホニ秀頼ヲアワレニ奉^ルラルト云^云
廿四日家康公ニ條ノ館^ニテ今度關カ原ニ
テ軍忠^ノ面々ニ賞地^ヲ與^フ歎^クタイノ大名
等多赦免^シテ如前^ノ所領等^ヲ與^テナリ此時家
康公大夫ニ天下ノ權^ヲ取^リ玉^ス入^ルル
廿五日會津ノ上^ニ枚景勝ヨリ和睦^ノ使上^ル
家康公旗^下ト云^ク長^ク入^ル事^ニ金吾家康
廿八日内府家康公一通ノ懇書^ヲ以^テ江州

ノ義卿^ヲ呼^出ス使^ハ德永式部卿^{法印}ナリ
コレハ今度大坂ヨリ石田三成秀頼公ノ上
意^ト云^テ北國表^ヘノ大將^ニ義卿^ヲ頼^處ニ
義卿^ヲ引^キテ依^テ内府^甚大悦^シテ宰人^ニ
ノ義卿^ヲ呼^出ト云^ク義卿^返事^ニ今度西國不^ス
殘^東國^退治^トシテ下^向ノ處^ニ吾^一人^石田
ニクニ世^又ハ内^々ヨリ内府^{ヨリ}内通^ニ依^テ
ト衆人^云ニ今^内府^{ヨリ}賞地^ヲ受^ハ非^ナ
リ其上^内府^ヘタイ^シ何^ノ忠義^ナシ忠^ナキ

ニ賞ヲ受ルハ非ナリトテ出ラレス内府ノ曰
今世ノ良將ナリト云々
十月又ハ内府ノ官ニ内府ノ事ニ
十三日地震
北四日大洪水
家康公父子東國下向時江州ニ至テ去ル七月
伏見城ニテ甲賀ノ者ウラカヘリタル者ノ新
人ニ水口ノ城ニシテ賞地ヲ與行ルウラ
カヘリタル者十三人ハ張付ニカケラル

京極高次大津ヨリ高野へ上ルニ道ニテ關カ
原家康公勝利ノヨシヲ聞テ取テカヘシ家康
公へ見ル内府大悅シテ高次ニ大領ヲ與フ
慶長六年
三月
六月當國ノ屋形義卿公志賀郡宇佐八幡宮
ヲ造營大リナリ
九月志賀唐崎ノ松先年ノ兵乱ヨリ雜人
枝葉ヲ伐取テ終彼松拈タリシヲ義卿公見

至又志賀ノ百姓等ニ仰付テ山門無動寺
山ニテ一枝モ不伐松ヲ取寄テ唐崎ノス丹
キタ膏クス十ヲツキタテ植玉フテ松下ニ
別當明神ノ宮ヲ建立シ玉フテ義卿公御詠哥ニ
九ヤ千ヨスレタ、唐崎ノ一松ウヘシ吾身ハ雲カクルトモ
此松今ニ至テアリ良將ノ御形見ナレハ其後
年又去テ蒲生氏卿上洛ノ時大津ヨリ此
松ヲ見テ義卿公ノ御事ヲ思ツ、ケテ東
京言語道斷君カ形見ニ植ラキニ志賀若松余所ニ見シハ

今年家康公令三要貞觀政要ヲ板ニ仰付ラハ
慶長七年一編ノ刻ニ於テ宮中ニ
四月
四日大風民屋多破倒ス
三日九月日ニ於テ
九日大津ノ町屋九百七十五間卯剋ヨリ子
剋ニテニ焼
十二月
四日洛東大佛殿焼失

四慶長八年癸卯年
 二月廿五日
 秀頼任内大臣家康公任征夷將軍
 六月八日
 三月山門ヨリ光物伊吹ヘトフ
 四月十一日
 九月勢多大明神ノ宮鳴動ス江州其外洛中ノ貴賤等彼宮ヘ群ヲ成ス時々宮中ヨリ光アリ如雷光此宮大龍神ノ其一社ナリ

慶長九年
 七月
 十五日栗本郡阿彌寺ノ如來ノ像ヨリ汗流ル御頭ヨリ光アリ國人近國ノ上下參詣ス
 八月
 十四日依家康卿命獅子田樂諸大名馬二百匹豊國大明神前ヲ被渡四座猿樂共新能一番ツ、仕ルナリ
 九月

廿四日佐々木宮鳴動屋形義卿ヨリ一七日ノ
護摩アリ修行僧ハ山門横川惠心院ナリ

慶長十年

徳川秀忠卿任征夷大將軍此時諸候共三人

マテ官位ニ上ル

九月

近國遠國共ニ大疫病ハヤル人多死ス將軍

ヨリ國々ノ守護ニ仰付テ大般若ヲ唱言ス

ヘキノヨシヲ諸寺諸社ヘフレ渡サル江州一

國ノ内ニテ疫病ニテ死ヌル者二千人一余ル

十二月

十五日南海洪波八丈嶋ノ近所ニ大山一夜

ノ内ニ涌出シテ今年ニ至ルニテアリト云

慶長十一年

朝鮮國ノ僧松雲來朝シテ請和

今年前將軍家康公武別江戸城ヲ築ク準古

鎌倉云

六月

六日大洪水コウスイ

七日後藤入道卒ス

慶長十二年エウチョウニジュニネン

潤四月

朝鮮國王ヨリ三官使來朝六月國へカへル

今年前將軍又駿河國府中城ヲ築ク

慶長十三年エウチョウジュサンネン

大織冠像ヤフレテ年ヲコヘテイヘ合タリ

今年白髮大明神ノ宮秀頼公母公建立其外

所々ノ社頭建立アリ

慶長十四エウチョウジュヨンネン

二月

八日大佛再造ノ普請始依家康公命也

三月

四日方形月出テ涌没スル事ウスツクカコトニ

五月

三日屋形ノ氏族京極若狹守宰相源高次卒

行年四十七歳長門守高吉ノ嫡男ナリ法名

道開号ス
三ノ日九月
十一日進藤入道道全卒ス行年八十三歳
四慶長十五
當將軍尾張國名古屋ニ城ヲキツク
今年嶋津ヲ流球ニツカハシ彼國ヲ伐取テ
國王ヲ生捕テ本朝ニカヘル則嶋津ニ彼國
ヲ將軍ヨリ與フ

三ノ日九月
十一日進藤入道道全卒ス行年八十三歳

四慶長十五

當將軍尾張國名古屋ニ城ヲキツク

今年嶋津ヲ流球ニツカハシ彼國ヲ伐取テ

國王ヲ生捕テ本朝ニカヘル則嶋津ニ彼國

ヲ將軍ヨリ與フ

正十七年ニ秀吉公ヨリ再建立アリトイヘ共

江州義卿入道台岩家礼山崎左馬頭家盛ヲ

以テ前將軍へ訃詔アリ其旨ハ山門既ニ天

正十七年ニ秀吉公ヨリ再建立アリトイヘ共

僧米之甚本朝ノ天台破滅セシ事悲キ事

ナリ將軍吾ニ先年關カ原ノ時與ヘント有レ

領地ヲ少分ニテモ山門へ寄附アラハ大慶

成ヘントノ事ナリ前將軍家聞召テ義卿其

功有テサヘ賞地ヲ不取稀ニ所望ノ所其上

内ニ存寄山領ナリトテ則山門へ寺領ヲ御

寄附アリ九八其詞二曰

北叡山延曆寺近江國志賀郡内所々都合

五千石別書在事永代令寄附早全可被寺

務之狀如件

慶長十五年七月十七日

家康判

山門三院執行代

九月

廿二日大佛殿柱立アリ豊臣秀頼公再興近年

秀頼公ノ母公淀局諸寺社ヲ建立アル下心
ヲ何者カ此比落書ニ

秀頼ノ天下ヲトラス物ナラハ神ヤ佛ノ公千ノカキアキ

慶長十六年

三月

廿七日御讓位アリ次日秀頼公ト家康公ト

京都ニツイテ會盟アリ福嶋左衛門大夫秀

頼公ノ供奉シテテタテノ事アリト

十二月

十二月御即位アリ

六月奉三月東二客星出ル

七月丹州ニ一頭三足ノ子ヲ産ムモノアリ

彼子ハ京へ上并洛中ヲ渡シ見物ス

慶長十七子年四月

光四月午剋雨雹降ル

十二月屋形ノ氏族箕作後見義賢入道兼禎

嫡子右衛門督源義弼卒法名鷄菴玄雄号ス

慶長十八年

七月九日雲光寺炎上氏綱公正月正日ニ至テ如

此寺門ノ事ヲ義卿公改玉フ是ヨリ雲光寺

破却ニ及フ

大寶十一月

大津四位宮燒失ス

十八日當將軍家ヨリ義卿へ公方義輝公ノ

代々六人ノ華論廿一箇條定テ江陽ノ家ニ

凡ルヘシテ御所望ナリ則義卿書寫アツテ

將軍家へ送進アル家札等此旨ヲ見テ則日

記ニト云彼廿一箇條ト云ハ見物ス

華論六人連衆カクロシ 江洲芦浦寺シホ 堀文阿彌ササノモト

池房泉能イナシマウセシノウ 京珠慶房キョウジュケイブ 德太寺義門トクタイジヨシカド

筑紫朱阿彌ツクシシユアミ

一 眞下七箇條 眞ニ非ス

一 主居同華二重之見ニ非ス

一 体之留主客ニ華枝ヲ争ス

一 客居後華之見ニ非ス

一 水邊ニ流テ葉ヲ平向ニ非ス

一 右左之留替共同色ニ非ス

一 後水限同色見越華ニ非ス

一 右左之水邊上下留ニ非ス

一 中七箇條

- 一 從二真下体葉肉華ニク地骨之見ニ非ス
- 一 從二真下体刀葉ヤリ葉面見ニ非ス
- 一 從二真下体并ノタニ同色リン華ニ非ス
- 一 從二真下体押葉アタ葉何ニ非ス
- 一 從二真下体ニ葉ノ上ニ体ナキ事ニ非ス
- 一 從二真下体ニ葉ノカリ葉カレハ面見ニ非ス
- 一 從二真下体谷峯ナクシテ見ニキレ平道ニ非ス
- 一 從二真下体ヨリ曲真ニ非ス

池主上七箇條

重々具ニ非ス

- 一 真々庭前ニシテ水中ニ体葉ヲワカス
- 一 真々入体遠山ニシテ後ヲ通ラス
- 一 真々ノ木リヤウ華ケシニナクシテ通ラス
- 一 真々体庭前ニシテ草華長ケヲアラス
- 一 真々ノ上トヲリ有トモ木華通ラス
- 一 真々ノ体遠山ニシテ里木後ヲコサス
- 右ノ尤一箇條ニテ末代マテノ華法度ヲナスナリ此、外ニ法アリト云ハ異説ナリ六人華論ニテ定ル法ナリト云

華慶長十九年甲寅年時... 見ニ非ス
 又徒四月... 六人
 廿六日大佛殿鐘ヲ不レ出ナリハ... 十
 九月ヨリ十月ニ至テ五畿内ニ伊勢ヲトリ
 アリヲヒタシ... 非ス
 一 眞十月... 大坂
 廿五日大地震諸堂半破倒ス... 大坂
 一元和元年乙卯年山ニシテ... 大坂
 一 眞五月... 大坂

七日大坂合戦日記紛失ス仍テ不記舊冬、十
 一月十日將軍御父子京著十一日ニ大坂表
 へ進發合戦アリ同十二月四日惣責後京極
 ノ後室アツカイアリテ將軍家大坂表ヲ引拂
 給ヒテ下向委夕日記ナシ
 元和二年丙辰年
 四月...
 十七日相國家康公他界葬日光山号東照大
 權現宮

元和三十四年

十月五日 宋末公 吳承恩 長山 范真 烈大

朔日大雹下凡

元永八月

元六月 天子崩 御後陽成院上申奉八人王百

八代十リ 御諱周仁陽光院太子也 御母新照

洞門院勸修寺内大臣晴秀公女也 天正十四

年十一月七日受禪同元五年 即位慶長十六年

三月元七日讓位 御在位元五年十リ 玉體ヲ

泉涌寺ニ送葬ニ夕テマツル

元和四年

八月

六日六角堂焼失

元九月三日井寺觀音堂焼失

元和五年

箕ヨリ冬ニ至テ東南雲間ニ毎夜白氣アリ

牛角コトニ數十丈又彗星東北方ニ出ル世

上説多シ此時天子ヨリ御製アリ

元和大和六年

二月一 燒千丈又燒屋東院一 燒山

晦日上京火一 燒東御所一 燒外御所一

三月 庚午

四日上京燒一 燒音堂一 燒一

六月八月

九日屋形ノ氏一 族箕作後見義賢入道一 義禎一

男大原中務大夫源賢永卒一 又行年七十四歲

法名兼漢号一 又

右此人ハ關カ原合戰之後將軍家ヨリ召出

サレ又彼息十二歳ノ時ヨリ前將軍家康公

ニ奉仕ル其父ニ依テ賢永關東伺公也賢永

ハ若年ノ時父兼禎ノ伯父大原中務高保ノ

養子ニ成ニ依テ大原十八名乗ナリ關東伺

公ノ後又佐々木ト号スト云

元和七醜年

六月

十八日將軍秀忠公ノ御女禁中ニ入玉一 立一

女御

御傳御母ハ岐阜中納言秀信卿ノ

七月

九日江陽ノ屋敷義卿入道台岩ダイカン當年四十五
 歳ニシテ初テ御子ヲモウタ是佐々木大明
 神へ申テ祈子ト云義卿公ノ曾祖父雲光寺
 氏綱公ノ他界ノ日正月正日ニ當テ平産ハ
 不審成十テ則氏綱ノ再誕ト家礼祝申十リ
 則氏綱公ノ童名ヲ付玉ヒ龍武御曹子ト云
 鷓鴣之有御傳御母ハ岐阜中納言秀信卿ノ

御女タリ和田孫大夫力大坂ニテ盜取タル
 姫君十リ江州ニテ百姓力養申タルヲ義卿
 公力へ取玉ノ十リ

十一月

北一日大風近國ノ山木半吹倒ス彌三郎風十云

元和八年

八月

十二日屋敷氏族京極ノ二男丹後守侍從源
 朝臣高知卒ス法名道可

順元和九癸亥年

十二月五日

龍武御曹司元服干時三歲号四郎氏卿

七月

九日酉剋前江陽管領少將源義卿入道台岩タイカン

逝去号源光院殿奥山崇岩行年四十七歲也

一元和元二兩年ニ義卿入道當家ノ度流共ノ

内系譜正久有之分ヲ金泥卷ニ入玉フ家

聯家ハハ味田系大夫次次

京極參議高次至テ元祖氏信ヨリ十四代ツクナリ

黒田甲斐守長政至テ同氏信ヨリ十二代ツクナリ

朽木信濃守元綱至テ元祖義綱ヨリ十代ツクナリ

龜井新十郎茲矩至テ元祖義清ヨリ十六代ツクナリ

屋子兵部少輔高忠至テ元祖義清ヨリ十三代ツクナリ

松下石見守之綱至テ元祖長綱ヨリ九代ツクナリ

森川二郎氏兼至テ元祖宗綱ヨリ八代ツクナリ

右七家ハ元和元二兩年改テ義卿系譜ニト

メ玉フナリ此外ツク家々多シ前方改メラ

レテ當家ノ卷ニ入ト也

右日記天正二年ニテ毎月正記也其ヨリ後

元和ニテノ日記ハ義卿公家礼中家ノ書付置

以集記屋形御代ノ日記者天正十年六月四

日觀音城落去之時御代ノ記禄等不殘燒失

右者江州七手組目加田馬劔伊庭三井三上

落合池田等家日記也

江源武鑑卷第十八終



